

長寿政策科学研究部

(1) 構成員

部長 荒井 由美子

室長

○ 長寿医療科学研究室

○ 長寿保健科学研究室

細川 彩

流動・研究開発研究員

水野 洋子

野口 知里

外来研究員

新井 明日奈

客員研究員

工藤 啓

杉浦 ミドリ

上田 照子

鷺尾 昌一

池田 学

上村 直人

研究補助員・事務補助員

安井 美淑

(2) 平成 25 年度研究活動の概要

当研究部のミッションは、“高齢者における保健、医療に関して、その実態を科学的に把握し問題点を分析することで、医療・保健政策立案に資するようなエビデンスを提示すること”であり、研究活動を通じて、このミッションを遂行していきたいと考えている。

認知症高齢者を含めた高齢者に関する社会医学的研究グループ (荒井由美子、水野洋子、野口知里)

a) 家族介護者の抑うつ症状・介護負担に関する研究 (荒井、水野、野口)

高齢社会の進行に伴い、在宅で家族を介護する者(家族介護者)は数百万人と推定され、その数は増加の一途を辿っている。家族介護者の健康の維持・向上について対応策を講ずることは、喫緊の課題である。本年度は、家族介護者の抑うつ症状に着目した。まず、介護保険制度下における居宅サービス利用者および家族介護者に対して実施した調査をもとに、大規模データベースの作成及び整備を行った。本データベースを用いて、家族介護者の抑うつ症状の関連要因について検討した。

結果の一部を第16回国際老年精神医学会(The 16th Congress of International Psychogeriatric Association (IPA))にて発表したところ、最優秀発表賞(the Best Presentation Award)を受賞した(Arai Y, The 16th Congress of the International Psychogeriatric Association (IPA), Free Communication, 2013 October 4, Received the Best Presentation Award)。

また、同学会において、上記の発表の他に、「アジア・オセアニア地域における心理社会科学研究の推進」と題するシンポジウムで講演を行った。

b) 認知症高齢者を含めた高齢者に対する外出・移動支援事業の概要及び事業評価に関する研究 (荒井、水野)

加齢に伴う疾病等により、自動車の運転免許証を返納せざるを得ない高齢者に対しては、代替となる外出・移動手段の確保が重要となる。そこで本研究は、地方自治体による外出・移動支援事業の概要及び、事業に対する自治体の評価を把握することを目的とした。なお、本年度は、平成20年に実施した全国市区町村調査(実施主体:荒井由美子)において回答が得られた1,027市区町村のうち、該当する事業を実施しており、且つ、面接調査への協力が得られた20の市区町村を対象として解析を実施した。

解析の結果、1)事業内容は、「公共交通機関の利用助成」、「外出時の付添い・介助」、「福祉・介護バス/タクシー」、「福祉車両の貸出し」、「デマンド交通」に分類された。2)各事業の評価は、「公共交通機関の利用助成」では、「現状で可」が主な評価であったが、「付添い・介助」については、「改善が必要」との回答が上回った。3)上記2)の評価を下した理由について、「改善が必要」では、「支援の範囲」、「費用負担」の見直し等が確認された。なお、「現状で可」とされた事業でも、改善の余地を残していることが確認された。(水野、荒井、第55回日本老年社会学会2013年6月6日)。

長寿保健科学研究室：細川 彩 高齢者の QOL 向上に関する心理学的研究

超高齢社会となった我が国において、心身ともに充実した老年期を過ごすことは誰もが願うことであり、健康長寿社会構築においても重要な課題の一つとも考えられる。

豊かな老年期を過ごすということは、身体的にも心理的にも自立することと同様に、社会的活動に参加し貢献をする機会の中で、生きがいや自己効力感を得ることである。

そのための一つに、高齢者ならではの認知機能の特徴を明らかにし、その特徴を活かした社会的活動への参加や貢献の機会を提案することが考えられる。高齢者が、社会に貢献する体験を通し、資源としての高齢者であることを自他共に意識することで、自身の QOL を高めていくことは重要である。

高齢者の認知機能の特徴の一つは語りに表れる。高齢者が知っている事や経験した出来事を語る際、詳細は省略される事が多いが、全体が非常に端的にまとめられ、分かり易いことがある。大量の情報を正確に処理する若年の成人とは異なり、高齢者は認知機能全般が衰える傾向にある一方で、何かを見聞きすると、それまでの人生経験を基礎に、全体を大局的に解釈する、という高齢者特有の認知機能が働い

ているからなのである。このような高齢者の語りの特徴を実生活に活かすことで社会に貢献する機会があれば、高齢者の QOL が高まる事も期待される。しかしながら、そのような高齢者の社会的活動を提案するためには、高齢者の語りがどのように実生活に有用であるのかを実証する必要がある。

そこで、本研究室では、高齢者の認知機能の特徴を活かした社会的活動を提案することを目的に、心理学的視点から語りの特徴に焦点を当てた、高齢者の QOL 向上に資する実証研究を行っている。

語りは、経験した出来事に基づいて行われるが、日常的な出来事の経験についての語りとは異なり、印象的な出来事の経験についての語りには、その経験が及ぼす何らかの人生への影響や認知機能の特徴など、様々な心理的な働きが示唆されることが多い。

従って、平成 25 年度は、印象的な出来事の経験に基づく語りから高齢者の認知機能の特徴などの心理的側面を明らかにするため、東北大学災害科学国際研究所との共同研究プロジェクトにおける東日本大震災被災者対象のインタビューにより収集された、震災体験談の分析を開始した。

研究業績（長寿政策科学研究部）

I. 論文発表

1. 原著

Hashimoto E, Washio M, Arai Y, Sasaki R, Mori M, Saito M. Depression among family caregivers of patients with dementia attending to psychiatric dispensary in northern Japan.

IMJ, 20(1): 9-12, 2013.

Arai Y, Kumamoto K, Mizuno Y, Washio M: Depression among family caregivers of community-dwelling older people who used services under the Long Term Care Insurance program: a large-scale population-based study in Japan.

Aging Ment Health, (in press), 2014.

Washio M, Arai Y, Mori M.

Factors related to the depression among caregivers of older people with disabilities who used home health care services in the metropolitan city of Hokkaido, Northern Japan.

IMJ, (in press), 2014.

Toyoshima Y, Washio M, Miyabayashi I, Haruna S, Arai Y. Depression among family caregivers of the psychiatric patients with visiting nursing services in Japan.

IMJ, (in press), 2014.

Mizuno Y, Arai Y: Support measures to enhance motivation for older people with dementia: a nationwide survey of Japanese municipal governments.

IMJ, (in press), 2014.

Arai Y: Challenges in disseminating the findings of psychosocial research conducted in a non-English speaking country.

International Psychogeriatrics (in press).

Washio M, Takeida K, Arai Y, Shang E, Oura A, Mori M.

Depression among family caregivers of the frail elderly with visiting nursing services in the northernmost city of Japan

IMJ, (in press), 2015.

2. 総説

荒井由美子：アジア・太平洋地域における高齢者のメンタルヘルス向上のための心理社会的研究コンソーシアム（PROMOTE）：日本における高齢者のメンタルヘルスに関する心理社会的研究：知見普及に係る課題。

Psychiatry Today, 34 : 22, 2014.

熊本圭吾, 荒井由美子：高齢社会における希望の醸成。

老年精神医学雑誌, 24(1) : 18-25, 2013.

工藤啓, 荒井由美子：健康日本21（第二次）地方計画についてー加美町第Ⅱ期健康増進計画「げんき加美町21」を支援の立場からー。

公衆衛生情報みやぎ, 417 : 7-9, 2013.

3. 著書、Chapters

Arai Y: Japan Breaks with Long Family Caregiving Tradition: New Long-Term Care (LTC) Insurance Scheme.

In: Duvvuru J, Kalavar JM, Khan AM, Liebig PS, editors. Global ageing care concerns and special perspectives. New delhi: Kanishka Publishers & Distributors, p38-45, 2014.

荒井由美子：精神障害の現状と分類。

鈴木庄亮・久道 茂, 監修. 辻 一郎・小山 洋, 編. シンプル衛生公衆衛生学 2013. 東京：南江堂, p313-325, 2013.

荒井由美子, 新井明日奈, 水野洋子：認知症高齢者と自動車運転ー社会支援の観点から。

池田 学, 編. 脳とこころのプライマリケア 2 知能の衰え. 東京：シナジー, p150-159, 2013.

荒井由美子, 水野洋子：介護負担と介護者支援：介護者への情報提供を中心に。

中島健二・天野直二・下濱 俊・富本秀和・三村 将, 編. 認知症ハンドブック. 東京：医学書院, p427-433, 2013.

4. その他

特記すべきことなし

5. 新聞・報道,等

荒井由美子. 福島民友 朝刊 2013年10月4日:14面.

高齢ドライバー 事故から守る:認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 高知新聞 朝刊 2013年10月5日:10面.

高齢ドライバーどう守る?<上>認知症発見 教習所で早く:認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 高知新聞 朝刊 2013年10月6日:12面.

高齢ドライバーどう守る?<下>細やかな外出支援課題.

荒井由美子. 京都新聞 朝刊 2013年10月6日:12面.

守ろう高齢ドライバー<上>:認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 福島民報 朝刊 2013年10月7日:7面.

高齢者の運転<上>:認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 佐賀新聞 朝刊 2013年10月7日:5面.

高齢運転手どう守る?:認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 静岡新聞 夕刊 2013年10月9日:5面.

高齢ドライバーの課題<上>認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 宮崎日日新聞 朝刊 2013年10月11日:13面.

高齢者運転者 認知症:認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 京都新聞 朝刊 2013年10月13日:9面.

守ろう高齢者ドライバー<下>:外出時の支援など課題も.

荒井由美子. 山陰中央新報 朝刊 2013年10月14日:9面.

高齢者と運転免許<上>:認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 四国新聞 朝刊 2013年10月14日 : 11面.
高齢ドライバーどう守る<上> : 認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 福島民報 朝刊 2013年10月14日 : 7面.
高齢者の運転<下> : 欠かせない外出時の支援.

荒井由美子. 静岡新聞 夕刊 2013年10月16日 : 5面.
高齢ドライバーの課題<下>欠かせない外出支援.

荒井由美子. 東奥日報 朝刊 2013年10月16日 : 11面.
欠かせぬ外出支援 : デマンド交通や割引券.

荒井由美子. 高齢者免許変更増える : 代替交通確保が鍵. 宮崎日日新聞 朝刊
2013年10月18日 : 13面.

荒井由美子. 山陰中央新報 朝刊 2013年10月21日 : 9面.
高齢者と運転免許<下> : 欠かせぬ外出時のきめ細かな支援.

荒井由美子. 四国新聞 朝刊 2013年10月21日 : 7面
高齢ドライバーどう守る<下> : 欠かせぬ外出時の支援.

荒井由美子. 中部経済新聞 朝刊 2013年11月1日 : 20面.
増える高齢者の免許返納 : 欠かせない外出時支援.

荒井由美子. 朝日新聞長野版 朝刊 2013年11月8日 : 28面.
認知症難しい対処 : 家族はどうしたら 分かれる意見.

荒井由美子. 大阪日日新聞 朝刊 2013年11月3日 : 11面
高齢ドライバーを守ろう<上> : 認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 日本海新聞 朝刊 2013年11月3日 : 9面.
高齢ドライバーを守ろう<上> : 認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 長崎新聞 朝刊 2013年11月12日 : 11面.
どうする高齢ドライバー<上> 認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 長崎新聞 朝刊 2013年11月13日 : 13面.
どうする高齢ドライバー<下> 欠かせぬ外出時の支援.

荒井由美子. 愛媛新聞 朝刊 2013年11月25日 : 16面.
高齢者と運転<上> : 認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 信濃毎日新聞 朝刊 2013年11月26日 : 13面.
高齢ドライバー守れ<上> : 認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 河北新報 朝刊 2013年11月29日 : 19面.
高齢ドライバー : 代替交通の充実必要.

荒井由美子. 愛媛新聞 朝刊 2013年12月2日 : 16面.
高齢者と運転<下> : 欠かせぬ代替交通支援.

荒井由美子. 埼玉新聞 朝刊 2013年12月2日 : 15面.
高齢ドライバーを守る<上> : 認知症が原因で失敗することの多い運転行動.

荒井由美子. 信濃毎日新聞 朝刊 2013年12月3日 : 11面.
高齢ドライバー守れ<下> : 生活の「足」確保が課題.

荒井由美子. 埼玉新聞 朝刊 2013年12月16日 : 15面.
高齢ドライバーを守る<下> : 欠かせぬ外出時の支援.

荒井由美子. 朝日新聞 朝刊 2013年12月19日 : 19面.
認知症とわたしたち 車の運転<上>.

荒井由美子. 朝日新聞デジタル 2013年12月19日.
認知症とわたしたち 車の運転<上>.

荒井由美子. 朝日新聞デジタル 2013年12月20日.
認知症とわたしたち 車の運転<下>.

荒井由美子. 朝日新聞 朝刊 2013年12月20日 : 19面.
認知症とわたしたち 車の運転<下>.

荒井由美子. 日本経済新聞 朝刊 2013年12月26日 : 39面.
老いるクルマ社会<下> : すべきこと山積.

荒井由美子. 朝日新聞 朝刊 2014年1月8日 : 31面.
認知症とわたしたち 車の運転<上> : 行き先忘れ.

荒井由美子. 朝日新聞 朝刊 2014年1月9日 : 25面.
認知症とわたしたち 車の運転<下> : 生活に必要な 危なくとも言えない家族.

荒井由美子. 読売新聞 朝刊 2014年1月15日 : 16面.
認知症明日へ : 運転 : 「卒業」 欠かせぬ家族の力.

6. 特許申請、取得状況
特記すべきことなし

II. 学会・研究会等発表

1. シンポジウム、特別講演

Arai Y. Psychosocial Research about mental health of older people in Japan: Challenges in disseminating findings(Symposium).
The 16th Congress of International Psychogeriatric Association (IPA), 2013 October 1-4 (Presentation: October 2), Seoul, Korea.

荒井由美子. 認知症高齢者の自動車運転を考える : 社会支援の視点から(シンポジウム).

第16回日本病院脳神経外科学会(招待講演), 2013年7月21日, 広島県福山市.

2. 国際学会発表

Arai Y. Depression among family caregivers of community-dwelling older people who used services under the Long Term Care Insurance program: a large-scale population-based study in Japan (Free Communication).
The 16th Congress of International Psychogeriatric Association (IPA), 2013 October 1-4 (Presentation: October 4), Seoul, Korea. (Received the Award for the Best Presentation)

Mizuno Y, Arai Y. Measures for enhancing the mobility of older people and people with dementia in Japan.

The 16th Congress of International Psychogeriatric Association (IPA), 2013 October 1-4 (Presentation: October 2), Seoul, Korea.

3. 国内学会発表

水野洋子, 荒井由美子. 軽度認知症高齢者による相乗り・乗り合い交通の利用可能性に係る地方自治体の見解.

第28回日本老年精神医学会, 2013年6月4-6日(発表6日), 大阪市.

水野洋子, 荒井由美子. 高齢者に対する外出・移動支援事業の概要及び事業評価: 支援事業を実施している地方自治体に対する面接調査の結果.

第55回日本老年社会科学大会, 2013年6月4-6日(発表6日), 大阪市.

水野洋子, 荒井由美子. 認知症高齢者を含む高齢者の外出・移動支援事業: 自治体が直面した課題及び対処方法.

第72回日本公衆衛生学会総会, 2013年10月23-25日(発表24日), 津市.

4. その他、セミナー等

荒井由美子. 要介護高齢者(認知症患者を含む)の家族介護者における介護負担.

第4回専門医のための熊本ディメンシアカンファレンス, 2013年7月12日, 熊本県熊本市.

Steven H. Zarit (Distinguished Professor of Human Development and Family Studies, Head, Dept. of Human Development and Family Studies, Penn State University, USA) Caregiver Burden: From Research to Practice. 2013年7月1日. CGSS セミナー(長寿政策科学研究部: 荒井由美子)

III. 公的研究費

1. 厚生労働省

特記すべきことなし

2. 文部科学省

荒井由美子, (代表) 80 万円 (総額 117 万円)

科学研究費助成事業基盤研究 C.

認知症高齢者の自動車運転: 支援マニュアルを用いた家族介護者に対する介入効果.

3. 財団、その他

細川 彩, (代表) 80 万円

東北大学災害科学国際研究所特定プロジェクト研究 B.

物語としての震災体験談の分析と記憶に関する研究.